

「自然史しずおか」60号 NPO15周年によせて

柴 正博

「自然史しずおか」も本号で60号となり、NPO 静岡県自然史博物館ネットワーク（NPO 自然博ネット）も平成15年（2003年）2月に設立して15年になります。

また、自然博ネットの母体となった静岡県立自然史博物館推進協議会（略称：自然博推進協）が平成8年（1996年）4月に結成されてから、22年になります。そして、私たちが活動を支援し、活動をともしるふじのくに地球環境史ミュージアムが開館して2年になります。

私たちが住んでいる静岡県は、雄大な富士山や南アルプス、美しい駿河湾や浜名湖、水と緑の伊豆半島など、豊かで多様な自然に恵まれています。このような自然の多様性は、太平洋に面し、深海から平野、そして急峻な山地という変化に富む地形とともに、自然の歴史すなわち地形や環境の変化と、生物地理の上でちょうど東北日本と西南日本の境界に静岡県が位置しているためでもあります。

このような多様な自然をもつ静岡県の自然を調べ、その自然の歴史を解き明かし、その記録を保存して、静岡県に住む人たちはもちろん広く多くの人たちに、静岡県の自然の豊かさとその重要性を知っていただき、ともに静岡県の自然を調べ、それを理解して記録し、その自然の変化を把握して、その県土を愛していく活動の拠点が、ふじのくに地球環境史ミュージアムです。

自然博推進協の設立からNPO 自然博ネットの設立、ふじのくに地球環境史ミュージアムの開館準備までの経緯の概要については、すでに「自然史しずおか」の50号（2015年9月）で述べられています。その後の2年半の歳月は、ミュージアムの開館とその後の博物館のさまざまな活動の中で、NPO 自然博ネットの活動も展開されてきました。

それにとめない、NPO 自然博ネットでもそのスローガンを「静岡県に県立自然史博物館



を！」というものから、「魅力的な自然史博物館活動を目指して！」と変えて活動をしています。

ふじのくに地球環境史ミュージアムは、2016年3月26日に開館して、もうじき2年になります。まだ、博物館の活動は始まったばかりで、ミュージアムの研究員や職員も、NPO 自然博ネットのみなさんもこの2年間は何にもわからず試行錯誤の中、走ってきたようなものだと思います。

2年経った今は、このまま走りつづけるのではなく、一息ついて、もう一度静岡県の自然の博物館の目的やNPO 自然博ネットの役割も含めて、今後ミュージアムがどのような活動を展開していくべきかと、私たちNPOはそのために何をなすべきかを考える時期ではないでしょうか。

このことは、できればNPO 自然博ネットだけでなく、ミュージアムの研究者や職員、さらにそのサポーターとともに、みんなで考えていくべきと思います。

「ふじのくに地球環境史ミュージアム基本構想」の管理運営の多様な機関と個人との連携の項には、「NPO 自然博ネットとの強固な連携を中核として、高等教育機関や研究施設、他の博物館、市民研究員など、多様な団体、個人との連携を進める」と記されています。

私たちNPO 自然博ネットは、今後もミュージアムの連携パートナーとして、その活動をサポートして、ミュージアムの使命である静岡県の自然環境の歴史についての理解と普及、そして後継者への継承を発展させていきたいと思えます。